

「えびな市民まつり」 参加団体・ボランティアスタッフを募集

えびな市民まつり実行委員会事務局では、今年開催の「えびな市民まつり」の参加団体とボランティアスタッフを募集します。

◆まつり参加団体
 出店・出演などに参加希望の方は、募集要項(4月16日)から同事務局で配布。市ホームページからダウンロードも可)の内容をご確認の上、お申し込みください。

※政治・宗教(布教活動を含む)に関わる出店・出演はできません

▽開催日 7月28日(土)・29日(日) ※荒天中止

▽参加対象 原則として市内在住・在勤・在学の団体 ※個人募集なし

▽当日までの流れ
 ①募集要項・申請書の内容確認
 ②申請
 ③実行委員会にて選考
 ④決定通知などの連絡
 ⑤参加費の入金
 ⑥当日出店・出演

◆ボランティアスタッフ
 開催期間中は、どの時間帯もボランティアスタッフを必要としています。ご協力いただける方は、ぜひお申し込みください。

※募集内容は、市ホームページをご覧ください
 ※募集内容は、市ホームページをご覧ください
 ※募集内容は、市ホームページをご覧ください

申 5月25日(金)までに、同まつり実行委員会事務局(市民協働課内、☎235・4794、e-matsuri@city.ebina.kanagawa.jp)へ。

「1000 Kids—Performance」 出演者を募集

1000 Kids—Team事務局では、「えびな市民まつり」で、県内でも最大級の、子どもだけによるダンスパフォーマンスを開催します。

ダンスに興味ある子どもはもちろん、初心者も大歓迎。ぜひご参加ください。

▽会場 海老名中央公園

▽対象 原則として小学生

▽練習日・場所 4月から月2回程度・市役所、青少年会館 ※学校・子ども会・クラブなど、団体単位の個別練習をご希望の場合は、指導スタッフを派遣しますので、ご相談ください。

申 5月31日(木)までに同事務局(市民協働課内、☎235・4794、e-matsuri@city.ebina.kanagawa.jp)へ。



子どもの読書活動を進めます

「海老名市子ども読書活動推進計画」を策定

今、子どもたちの生活の中には、ゆとりを持って読書に親しむ時間が少なくなっています。

読書活動は、言葉を通じて、想像力を豊かにするために欠かせない活動です。そのため、より多くの子どもたちに、読書を楽しむ機会と場を提供することが必要となっています。

これらことから、市では、「海老名市子ども読書活動推進計画」を策定しました。これは、家庭・地域

・学校などで、読書に親しむ環境や機会を提供すること、読書を通して子どもの健全な成長の一助とすることを目的としています。

計画には、①読書に親しむ環境づくり(図書館の蔵書充実・読み聞かせ活動ほか)②読書に親しむ機会の提供(「赤ちゃん絵本コーナー」「おはなしひろば」「一日図書館員」「自動車文庫」ほか)③読書情報の提供と啓発(「子ども読書の日」での子ども参加行事の開催ほか)など、市が今

◆新シリーズ◆

「自助・共助・公助」と「市防災計画」

さあ! 「共助」
～地震発生後の対応～

生活安全課 ☎235・4790

今回は、阪神・淡路大震災級の地震が本市に発生したものと想定し、地震発生後どのように対応したら良いのかを考えましょう。

◆隣近所で協力を

①家族の安否確認を
 ②家の倒壊等で下敷きになり救助が必要になったら、「助けて!」と大声で叫

消防団第1分団 器具置場が完成

市消防団第1分団器具置場の建て替え工事が完了し、3月21日、消防団関係者や地元自治会により落成記念式典が行われました。地域に密着した防災施設



海老名市消防団受章の「まとい」市役所に展示

海老名市消防団は今年2月、(財)日本消防協会の最高栄誉賞である「まとい」を受章しました。

これは、市消防団が災害から住民の生命と財産を守るため、努力を重ねた功績を高く評価されたものです。また、このまといは、3月19日に厚木市文化会館で行われた神奈川県消防



び、隣近所と協力して簡易救出を

※簡易救出とは…簡易な機材(ボール・ジャッキ等)を使用した、多数の人の協力による救出

③火が出ていたら「火事だ!」と大声で叫び、隣近所と協力して消火活動

《阪神・淡路大震災では、火災による被害は7000棟・死者約500人》

④救助や火災が発生したら119へ通報

⑤自宅の安否確認が済んだら隣近所を確認。救出が必要な人がいたら、簡易救出を

⑥隣近所に要援護者がいたら、地域の人で支援する

※要援護者とは…災害時に支援を要する人々。一般的には高齢者、障害者、外国人、乳幼児、妊産婦など

《同大震災の救助のうち、全体の8割程度は簡易救出

で助けられ、救出された人のうち9割以上は、隣近所の協力によるものと推定される》

《何かに挟まれて圧迫され、窒息した人で、30分以内の救出で助かった可能性のある人が多数いた》

◆ガス・電気のチェックを

①プロパンガスは、ガスボンベの開閉弁を閉める

②都市ガスは、家への取り入れ配管の開閉弁を閉める

③電気ブレーカーは遮断する

《同大震災では、避難中の留守宅などで、送電回復に伴う火災(電気火災)が初期消火されずに発生した》

◆避難所へ行く際の注意

①住宅が危険で住めない状態になったら、隣近所の人達と一緒に、指定の一時避

難場所へ(要援護者がいたら、支援をしながら移動)

※住宅が危険かどうか判断できない場合も避難所へ。

できるだけ早い時期に住宅の「応急危険度判定」を実施します

②移動時は、狭い道・塀沿い・川べりなどを避ける

③非常食などを持ち出せるようであれば持つていく

④火災に注意。火災から逃げる必要がある場合は、広域避難場所へ

《火災は、風速7m/sで1時間100㎡延焼する》

⑤広域避難場所は地区割をしてはいますが、あくまで目安ですので、必ず指定場所へ行かなければならないわけではありません。また、避難所は地区割をしていないので、近くに避難所があれば、そちらへ避難してください

◆災害用伝言サービスの利用を

家族・親族の安否確認は、地震発生後3日程度は、消防市役所に問い合わせの電話はせず、「災害用伝言サービス」などを利用してください(行政の電話がパンクし、災害に関する情報の収集・伝達に支障をきたします)。

◆地震で壊れない家作りを

一番重要なことは、地震で壊れない家作りです。家が倒壊しなければ、家の下敷きになることも、被災後に不自由な避難所生活をすることもありません。耐震診断をして、家の耐震補強を行いましょ。

次回は、「災害用伝言サービス」等や災害時の情報について

便利です! 「えびな安全・安心メールサービス」

登録は ebi@post.ebina.jp まで空メールを送信。
 詳しくは、市ホームページまたは市生活安全課へ